

1 学習指導案をつくってみよう



学習指導案をつくらうと思うのですが、特別支援学校、特別支援学級の学習指導案の特徴について知りたいので、教えてください。



特別支援学校、特別支援学級の学習指導案は、一人一人の児童生徒の実態から始まり、一人一人の児童生徒の個別目標や支援が、具体的に分かりやすく記載されます。また、T・Tの連携の方法なども示されますよ。

○ 小・中学校等との学習指導案の違い

	特別支援学校、特別支援学級の学習指導案	小・中学校の通常の学級の学習指導案
児童生徒への働き掛け	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒全体だけでなく、一人一人の児童生徒への指導や支援も記入する。 一人一人の児童生徒の個別の目標の達成に近づくための、必要な指導や支援を記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> 主に児童生徒全体への指導や支援を記入する。 習熟状況に合わせ、その段階ごとの児童生徒の学習を促進させる手立てを記入する。 評価規準の項目に、努力を要する状況(C)の児童生徒への手立てを記述することがある。
単元（題材）について	<ul style="list-style-type: none"> 始めに「児童生徒観」から書き始める。 ① 児童生徒観 ② 単元（題材）観 ③ 指導観 「個別の指導計画」に留意しながら、児童生徒観→単元（題材）観→指導観の順に書く（「〇〇な児童生徒だから、△△な内容を、□□のような指導や支援で」と書くことで指導が具体化される）。 	<ul style="list-style-type: none"> 始めに「単元（題材）観」から書き始める。 ① 単元（題材）観 ② 児童生徒観 ③ 指導観 学年（生活年齢）に応じた指導計画に基づく授業を行うので、単元（題材）観から書き始める。
目標・評価	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の集団全体だけでなく、一人一人の児童生徒の目標・評価も細かく記述する。 ただし、自立活動においては、三つの柱から整理されていないため、個別の指導計画に基づき、6区分27項目との関連を押さえて記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> 主に児童生徒の集団全体の目標・評価を記述する。



特別支援学校、特別支援学級では、学習指導案の形式や盛り込む内容などに細かな工夫や配慮が示してあるので、分かりやすいですね。



学習指導案には、略案と細案がありますよね。その違いについて詳しく教えてください。

略案は、授業の大まかな流れを押さえる設計図です。

細案は、授業全体が構造化されている緻密な設計図です。

学習指導案の略案・細案共に、基本的には決まった様式はありません。ただし、各市町村や各学校などで様式が決められていたり、初任者研修等で示されたりする場合がありますので、参考にしてみるとよいですよ。

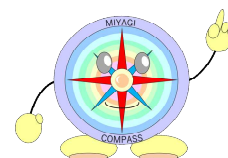


○学習指導案の形式の違い

	特 徴	活用場面（例）
略案	<ul style="list-style-type: none"> 細案の「本時の計画」の項目（本時のねらい、本時の指導過程など）のみ明記している。 T I（授業を中心に考える教師）が基本的に作成し、T・T間で授業の共通理解を図ることができる。 A4版1枚程度でまとめることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の授業の構成を考えるとき。 本時の指導記録を累積するとき。 本時の授業改善等に役立てるとき。 授業研究会などで、授業者の意図を分かりやすく示すとき。 参観日等で、保護者に授業を見てもらうとき。
細案	<ul style="list-style-type: none"> 単元（題材）名、単元（題材）設定の理由、単元（題材）の目標、単元（題材）の指導計画、評価規準、本時の指導など、一単元全ての項目について、詳細に明記している。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒や単元（題材）、授業の捉え方、考え方をまとめ、授業研究会等で授業を提供するとき。 単元（題材）全体の授業改善等に役立てるとき。 校内研究や研修会、学校訪問指導などで関係者から授業に対する助言を得るとき。

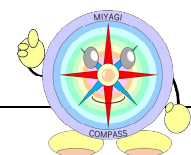
略案づくりのポイントは、**児童生徒の実態を的確に把握し、授業のねらいを明確にすること**です。「できるようになって欲しいことは？」「どうすれば、みんなで楽しく活動できるかな？」というような、児童生徒への思いやアイデアを形にしましょう。

細案を書くとき、**目の前にいる児童生徒のことをじっくり丁寧に考えながら授業づくりをすることができる**ので、児童生徒のより良い成長と教員の専門性向上が期待できます。



日々の授業づくりと同様に学習指導案づくりでも、児童生徒の実態を踏まえることが、大切なポイントなのですね。

学習指導案づくりの20の視点



学習指導案の項目	視点の内容
単元（題材）名	視点① 活動がイメージしやすく、主体的に取り組みたくなる表現である。
単元（題材）設定の理由	
・児童（生徒）観	視点② 個別の指導計画とこれまでの学習状況を基に考えている。 視点③ 単元（題材）に対する児童生徒の興味・関心、発達段階、生活経験を分かりやすく書いている。
・単元（題材）観	視点④ 単元（題材）を通して、児童生徒に <u>どのような力を身に付けさせたか</u> に着目している。 視点⑤ <u>学習指導要領の「各教科の目標及び内容」</u> を押さえている。
・指導観	視点⑥ 児童生徒の学習上の特性を踏まえた指導の方針・手立てが分かる。 例：単元構成の工夫、教材・教具の工夫、学習形態の工夫、評価方法の工夫
単元（題材）の目標 単元（題材）の個別の目標	視点⑦ <u>「育成を目指す資質・能力」</u> が明確である。
単元（題材）の評価規準 単元（題材）の個別の評価規準	視点⑧ <u>「育成を目指す資質・能力」</u> に対する到達状況が具体的である。
単元（題材）の指導と 評価の計画・評価方法	視点⑨ 単元（題材）の目標を達成するための、評価の計画が明確に位置付けられている。 視点⑩ <u>扱う教科の内容</u> が明確に示されている。（主に各教科等を合わせた指導の場合）
本時の指導	
・本時の目標	視点⑪ 「単元（題材）の目標」から絞り込んだ内容になっている。
・本時の指導に当たって	（ 視点⑥ 児童生徒の学習上の特性を踏まえた指導の方針・手立てが分かる。）
・本時における個別の実態と 目標及び評価規準	視点⑫ 個別の実態は、できること・できそうなことに注目し、本時の指導につながる観点で具体的である。 視点⑬ 個別の目標は、 <u>どのような力を身に付けさせたいか</u> が具体的である。 視点⑭ 個別の目標を達成するための手立てが具体的である。
・指導過程	視点⑮ 教師の動きやT・T間の役割が明確である。 視点⑯ 授業全体の流れが分かり、中心的な学習活動が明確である。 視点⑰ <u>「育成を目指す資質・能力」</u> が身に付くために、 <u>「主体的・対話的で深い学び」</u> の視点で指導や支援を考えている。
・本時の評価	視点⑱ 「本時の目標」に対する到達点を具体的に押さえている。
・準備物	視点⑲ 教材・教具の工夫や使い方が具体的である。
・場の設定	視点⑳ 図や写真を用いて、イメージしやすいように示されている。

※学習指導案の様式に合わせて、必要に応じてご活用ください。